

# 第17回日本語大賞

特定非営利活動法人日本語検定委員会



一般の部 優秀賞 受賞作品

『ぱやんぱやんで行こう』

アメリカ

シマフィー

ばやんばやんで行こう

シマフイー

ストレス社会に生きている。私だけではない、大人は誰もそうだ。アメリカの私立高校で教師をしているが、教室を見渡す限り、子供だってストレス社会に生きている。身近な誰かから、もしくは漠然とした見えない文化から、さらには自分の中に育った気持ちや理想やゴールからもストレスを感じる社会に生きている。

海外で暮らし始めて三〇数年が経ち、毎日の生活言語が英語になってから久しいが、ちよつとストレスが気分を下げていているな、やる気を削いでいるな、幸せを曇らせているな、と感じる時は日本語で声に出して気分のコースを変える。それは正確に言うとは標準の日本語ではない、私が生まれ育った宮崎の言葉だ。

ばやんばやん

宮崎人以外の日本人の皆様には何のことやらわからないことだろうが、これは魔法の言葉だ。もう音だけでも気分が良くなる。意味が分からずとも「ばやんばやん」と言いながらちよつと笑みが漏れない人がいるだろうか。

ばやんばやんはちゃんとした日本語に訳せない。強いて言うなら、注意散漫でボーっとしている様子、適当に力を抜いている状態、しつかりしていない人、そんなところだろうか。色々な状況で様々な状態を形容できるが、基本あまり良くない意味として使われる。しかしながら、宮崎特有のあつたかさと言つるか丸さと言つるか、誰かに自分がばやんばやんしちよるのはいかん、と諭されてもあまり傷つかない。多分その言葉自体がばやんばやんにほんやりとしていて、心にぐさつと刺さらないためだろう。別にいいわ、ばやんばやんしちよつても、と開き直りという選択を必ず与えるような響きだ。

人は決心してばやんばやんになろうと頑張ることはないし、ばやんばやんしているように見えても実はちゃんとしている人もいる。だが私はストレスを感じているな、と察したら強い意志を持つてばやんばやんになる努力をしている。

何も気にしない、嫌な言葉は聞かない、煩わしいことは見ない、頭を振ったらばやんばやんと音がするように素晴らしいことだけに集中して自分の興味が導くままに、いつも通りの従わねばいけない手順の道筋から離れて思考の徘徊をする。

ばやんばやんくと繰り返す声に出すと、宮崎青島の波の音や濃い緑の匂い、甘いパインに残る酸味やゆつたりと吹く熱い風を感じる。

握ったばあちゃんのシワシワの手。じいちゃんが運転する軽トラが巻き上げるホコリ。小さな弟が笑い声を上げながら自転車でギリギリ傍をシャーッと駆け抜け、私は手にしたピアノカバンを落としそうになる。母が淹れたコーヒーの渦に巻かれ踊る牛乳、そしてそれを亡きものにするばさつと落とされる白い砂糖。父が捌いた幾何学模様のチヌの刺身。ブーゲンビリアの濃いピンク、貝殻を重ねて作った小さな亀のお土産品。

現在の私を作った遠い昔の小さな幸せが体をペタペタと触るように行き来する。そんな心

地よいペタペタを感じながら薄目を開けてブラブラとそこら辺を歩く。

シマちゃん、ばやんばやん歩いちゃうたら転ぶかい危ねえよ。

シマちゃん、シャカシャカしてんどんげもならんが、ばやんばやんしちゃうくらいがいいが。シマちゃん、そんげばやんばやんしちゃうって大丈夫ね、先生に怒らるっといかんがね。

シマちゃん、ばやんばやんでん、誰にも迷惑かけんけらそれでいいよ。

色んな声を聞きながらばやんばやんと歩くうちに、自分が抱えている問題はそのうちどうにかなるのだ、ちゃんと真面目に生きていけば幸せになるのだ、と思えてくる。

外国で生きていると避けられない違和感や疑問、理不尽さや悲哀、悔しい思い、差別や偏見、そんなどうにも簡単に解決できないような悩みはいつときでもばやんばやんと生きること  
で軽減される。

放課後の教室で一步大きく踏み出すことにはやんばやんとリズムを取る奇怪な行動をとる私に生徒たちが訊いた。「ミスシマ、何て言ってるの？ 日本語？」

「これは故郷の方言で everything will be ok と自分に言い聞かせるよきに使うの。」

「へえ、パヤンパヤンいいね、魔女の呪文だ。僕も使ってみよう。」

翌週のルネッサンス史の中間テストに男子生徒三人が大きな歩幅とニコニコ笑顔で教室にやってきた。

パヤン〜パヤン〜

今日は〜テスト〜多分難しい〜でも大丈夫〜パヤン〜パヤン〜

まるでヒップホップを歌うように手振りとステップもつけて教室を一周した彼らは、ベルが鳴りテストが始まるともうばやんばやんしていなかった。真剣な眉毛と弛まない口元から、彼らはちゃんと勉強してきた事がわかる。六十分ギリギリで小論文パートを書き上げると、彼らはまたパヤン〜パヤン〜ミスシマ〜We love you〜と歌いながら教室を去った。

その日の放課後、よく出来ていたテストを採点しながら可愛い彼らがアリガトウとゲンキデスカの次に覚えた日本語がパヤンパヤンだったことに気づいて涙を流して笑った。  
先週抱えていたストレスはもう影も形もなくなっていた。

ばやんばやんと歩いても大きな怪我をするほどに転ばない道は小さな努力と日々の些細な学びで築かれてるのがわかる。それを誇りに自信を持ち、自分らしく生きる事が幸せなのだ  
と改めて感じる。

ばやんばやんで行こう、胸を張って笑顔で歩こう。